

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

学校名 岐阜希望が丘特別支援学校

テーマ 肢体不自由教育コア・スクールの専門性を活かした授業実践

～自ら学ぶ姿を引き出す授業づくり～

取組のポイント・成果

[取組の内容とポイント]

- ① 6月26日(木)「高松支援学校での授業づくり実践」香川大学附属特別支援学校 佐野氏 WEB
刺激に対して、児童生徒がどのような反応をするのか、観察の仕方や刺激の与え方、環境設定について学んだ。
- ② 7月8日(火)「研修のマインドについて～Yes, and で始まる対話～」
株式会社先生の幸せ研究所 大野氏 対面
教職員が自分で学んでいくために探究課題を探す。自分の好きなこと、やりたいことに気付くことができた。
- ③ 10月8日(水)「肢体不自由のある児童生徒への支援の実際～シーティングを主に～」
かがやきキャンプ 藪本氏 対面
児童生徒が快適に学びに向かうために、大切にしたいことやシーティングの基本を学び、明日からやってみよという声が多くあった。
- ④ 11月5日(水)「肢体不自由のある児童生徒への支援の実際～ポジショニング～」
かがやきキャンプ 藪本氏 対面
児童生徒が力を抜き、深い呼吸をするためのポジショニングについて学んだ。児童生徒がいろいろな姿勢を取れるような学びがあった。
- ⑤ 12月8日(月)「事例検討会」香川大学附属特別支援学校 佐野氏 WEB
小学部、高等部から2事例挙げ、事例検討会を行い、佐野氏から助言をいただいた。ICTについて、ただ使うだけでなく周りの環境に気付き、欲求へとつなげるような使い方の提案があった。
- ⑤ 1月8日(木)「事例検討会」香川大学附属特別支援学校 佐野氏 対面
小学部、高等部から2事例挙げ、事例検討会を行い、佐野氏から対面で助言をいただいた。教材の準備段階から空間をうまく使い、児童生徒の気付きを広げていけるとよいという提案があった。
- ⑥ 1月26日(月)「研修 Re デザイン～これからの研修～」株式会社先生の幸せ研究所 大野氏 WEB
対話を通して、自分の立脚地に気付き、来年の探究テーマを見つけた。来年度の「一人一事例」研修に向けて探究テーマを設定した。

今後の課題

研修に対して受け身的な姿が見られるので、研修を自分事として捉えて向かう必要がある。新たな教師の学びの姿の実現に向けて、教師自身の主体的な姿勢、継続的な学び、協働的な学びが求められている。受け身の研修ではなく、探究したいことを自ら学び続けられるような研修を仕組みたい。次年度は、講義型研修だけでなく、一人一事例に取り組む活動を取り入れることで、知識の幅を広げながら、自己課題を探究し、教職員の専門性の向上につなげたい。

研修主事研修の報告で、還元させていただきます。